**聖霊降臨節第3主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年6月11日**

**「イエスはキリスト」**

**詩編16編10～11節**

**16:10 あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず**

**16:11 命の道を教えてくださいます。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。**

**使徒言行録2章22～36節**

**2:22 イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。**

**2:23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。**

**2:24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。**

**2:25 ダビデは、イエスについてこう言っています。『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、／わたしは決して動揺しない。**

**2:26 だから、わたしの心は楽しみ、／舌は喜びたたえる。体も希望のうちに生きるであろう。**

**2:27 あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておかれない。**

**2:28 あなたは、命に至る道をわたしに示し、／御前にいるわたしを喜びで満たしてくださる。』**

**2:29 兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあると、はっきり言えます。**

**2:30 ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはっきり誓ってくださったことを知っていました。**

**2:31 そして、キリストの復活について前もって知り、／『彼は陰府に捨てておかれず、／その体は朽ち果てることがない』／と語りました。**

**2:32 神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。**

**2:33 それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。**

**2:34 ダビデは天に昇りませんでしたが、彼自身こう言っています。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着け。**

**2:35 わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするときまで。」』**

**2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」**

**私たちは先週の礼拝に続きペンテコステで聖霊に満たされたペトロが生まれて初めて行った説教を共に聞いています。先週の礼拝で私は「ペトロの説教は主にユダヤ人に向けて語られたものですが、それは同時に私たちに向けて語られているのです。私たちは決して他人事ではなく、自分事としてペトロの説教に共に耳を傾けていきたいと思います。」と申し上げましたが、それは今日も同じです。2000年も前にユダヤ人に向けて語られた説教が、しかも内容が難しい説教が今21世紀を生きる私たちと何の関係があるのかと思うかもしれませんが、関係は大いにあります。**

**先週のペトロの説教は聖霊が降る出来事が旧約聖書の預言者ヨエルの預言の成就であることを語っていました。それはいわば説教の序論と言うか枕にあたる部分です。ぶどう酒に酔っているのではない、旧約聖書の言葉が実現したのだ。まずそう語って今日の本論に入るわけです。ペトロがこの説教で言いたいことを一言で言いますと「イエスはキリスト」ということです。そう、「イエスはキリスト」これこそがペトロがこの長い説教で語りたいことなのです。「キリスト」は名字でもなければ名前でもありません。救い主と言う意味の言葉です。「イエスはキリスト救い主である」。そのことをペトロは旧約聖書の言葉を引用して筋道立てて理路整然と語り、他人事でなく自分事として受け止めて欲しいという願いを持って語るのです。**

**22節でペトロは、「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。」と説教を聞いているユダヤ人たちにまず呼びかけて、あなたたちがよく知っているナザレの村出身の人イエスこそが父なる神様から遣わされたお方であると説教は核心部分に入っていきます。**

**ただこれは聞いていたユダヤ人たちからするとありえないことでした。この説教から約50日前にユダヤ人たちはナザレの人イエスを犯罪人として十字架に掛けて殺してしまったからです。そんな犯罪人が父なる神様から遣わされたお方であるなどとうてい受け入れることはできないことでした。**

**ペトロは続けます。「あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。**

**しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。」（23・24節）**

**ペトロはユダヤ人たちが十字架につけて殺したナザレのイエスを父なる神様は死から復活させられたと語ります。**

**このペトロの説教を聞いていたユダヤ人たちのこの段階での反応は記されていませんのでわかりませんが、おそらく「なんて馬鹿げたことを言っているのだろう」と思ったでしょう。十字架刑の犯罪人が神から遣わされた方というだけでも馬鹿げた話なのに、さらに神様が死から復活させられたなどあまりにひどい話に聞いていられないと思った人もいると思います。**

**それでもペトロは説教をやめません。なおも語り続けます。ペトロの説教は更に核心部分に進んでいきます。イエス様の復活は旧約時代の偉大な王であるダビデ王がもうすでに1000年近く前に詩編で預言しているというのです。詩編16：8～11を引用し、ペトロは自分が作り話をしているのではない、聖書にちゃんと書かれてあること証明します。さらにペトロはもう一度詩編16：10節を引用してイエス様の復活は昔からすでに決まっていたことであることを語ります。さらにペトロはイエス様が天に上げられること、聖霊が降ることも神様が昔からお決めになっていて、ダビデは預言している、旧約聖書にきちんと書かれてある。全ては神様の御心どおりになされたのだ、私たちはその事実の証人にすぎないのだ。私たちが語っていることは全て真実の出来事である。イエス様の十字架の死も復活も昇天も聖霊も全て真実の事であり、全ては神様のご計画の通りなのだ、とペトロは力強くこの説教で語りました。**

**そしてペトロは説教でこのように結びます。36節です。**

**「だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」**

**ペトロがこれまで旧約聖書を引用するなどして語ってきたイエス、そのイエスこそが主であり、メシアすなわちキリストであり救い主である。あなたたちが十字架につけて殺したイエスこそが救い主なのだ。あなたたちは救い主を十字架につけて殺したのだ。救い主を殺したのは他でもないあなたたち、いえあなたなのだとペトロは聞いているユダヤ人一人一人の心に訴えかけるのです。そして私たち一人一人の心に訴えかけるのです。「あなたなのだ」と。**

**「あなたなのだ」そう言われてもピンとこないかもしれません。私はべつにイエス様を十字架にかけて殺した覚えはないし、そもそも私は2000年も前に生きていないのだから「あなた」と言われても私とは関係がない、そのように思われるかもしれません。**

**私も教会に通い始めた20代前半の頃同じように思っていました。どうして2000年も前のイエス様の十字架の出来事が今の自分と関係があるのかわかりませんでした。罪とか救い主とか言われるけど、何か昔の遠い世界のことを言われているようでピンとこないままに教会に行き礼拝を守り説教を聞いていました。**

**私は当時の牧師に自分の正直な思いを話しました。すると牧師は「君はずっとまじめに生きて来て自分は正しいと思っているんじゃないのかな。聖書が言う罪は神様を離れて生きることだよ。罪がわからないとイエス様の十字架の愛はわからないよ」と言われました。私はそう言われて「ああなるほど」と思いました。確かに私は20数年自分なりにまじめに生きて来たつもりでした。ですから罪と言われて、その罪のためにイエス様が十字架にかかってくださったと言われても、「自分は犯罪を犯していないのに罪人と言われても」と思い、どこか他人事でした。そして、牧師から「罪がわからないとイエス様の愛がわからない」と言われても、それをまた頭で理解しようとしてわかったようなわからないような感じでした。**

**そんな中で私は知らない内に神様に祈っている自分に気が付きました。祈りの内容は覚えていませんが「私は十字架の愛がわかりません」といったような思いを神様にぶつけたと思います。すると不思議なことに心がふっと軽くなりました。後から考えると、そこに聖霊が働いて下さったのかなと思います。正直言いまして、難しいことはわかりませんでした。けれども「こんな弱く小さな自分のためにイエス様は十字架に掛かって死んでくださったんだ」と言うことに気づかされました。そして、これからは神様にお委ねして生きていこうと思いました。そして、私の思いを改めて牧師に話すと大変喜んで下さり、しばらくして洗礼へと導かれたのです。**

**ペトロの説教を聞いた人々は「大いに心を打たれた」と次の37節に書いてあります。心を打たれる思い、はっと気づかされたのです。ペトロが「あなたたちがイエス様を十字架につけて殺したんだ」「あなたなのだ」と語りかける、そのペトロの言葉にはっと気づかされたのです。はっと気づかされて「この私がイエス様を十字架に掛けて殺したのだ。わたしなのだ。イエス様は私の罪の贖いのために十字架で死んでくださり復活されたのだ」ということにはっと気づかされたのです。イエス様の十字架と復活の出来事が他人事ではなくて自分事になったのです。それはまさに聖霊に満たされたペトロが願っていたことであり、そのために力強く説教を語ったのです。**

**それは、私も同じです。私はペトロのような素晴らしい説教はできませんが、今私が祈り願い語っているのはペトロと同じことです。はっと気づいて欲しいのです。頭でどんなに考えても十字架も復活も罪も愛もわかりません。頭でわかるのではなくて、心でわかることなのです。イエス様を十字架に付けたのはこの私なのだ、イエス様はこんな私のために十字架に掛かって死んでくださり復活をして下さり、こんな私を愛して下さっている。私は愛されて生かされている。そこに気づかされた時に私たちの信仰は始まるのです。それは聖霊の働きによるのです。**